学びは生活の一部

ぎふ シニア新時代
超高齢社会を生きる

第１部 ⑧

意欲旺盛、講座にぎわう

意欲的に学ぶ高齢者が増え、企業が開く生涯学習の講座はにぎわいを見せる。

昨年11月の夜、岐阜市の志門塾岐阜本部校。難関高校・大学の合格者実績の張り紙が並ぶ教室で、講師秋枝博士さん（38）が、ＮＨＫ大河ドラマに登場した幕末の会津藩士山本覚馬をテーマに講義していた。受講者はシニアが目立つ。

同塾を運営する東海プロセスサービス（大垣市）が１９９８年から開く社会人向け生涯学習講座。一貫して歴史上の人物の生き方を扱ってきた。本年度は計４校舎で開講、受講者80人の約６割が60歳以上だ。毎年受講する岐阜市の主婦堀正子さん（78）は「小５で終戦を迎え混乱期で十分に勉強できなかった。もし今こんな人物がいたらと想像しながら学ぶのは楽しい」と声を弾ませた。

十六銀行も、退職後に居場所をなくしがちな元会社員らをターゲットにした生涯学習講座「くるるセミナー」を続けている。岐阜大と共同で六つの講座を３カ月サイクルで開講。２００１年の開設以来、受講者は延べ１万４千人に上る。

昨年11月に岐阜市内で開かれた、源氏物語絵巻の見どころを学ぶ講座も満席。受講した元会社員喜田雅之さん（73）＝可児市＝は「同年代の知り合いができて楽しい。生活環境も似ていて会話も弾む」と笑った。ダブルクリックから教えたパソコン講座も操作に慣れた人が増え、近年は高度な動画の取り込み方を扱うなど内容を衣替えしてきた。

生涯学習講座で歴史上の人物の生き方を熱心に学ぶ高齢者ら＝昨年11月29日夜、岐阜市橋本町、岐阜シティ・タワー43内志門塾岐阜本部校

十六銀の担当者は「寝たきり予防策を学ぶ講座より、中国語の学習後に中華料理を味わう企画や、海外旅行の参考になる現地の暮らしを聞く講座などが人気」と語り、次の行動につながる知識を求めるシニアの旺盛な好奇心に注目する。

県が11年に岐阜、大垣、可児の３市で行った県民意識調査では、直近１年間に生涯学習に参加した60代は54％で、全年代の41％をしのいだ。生涯学習の頻度で見ても、週に３回以上参加した人の割合は60代で26％で、全年代の22％を上回った。

志門塾で教える秋枝さんは講座のたびに行うアンケートで受講者から疑問を寄せてもらい、後日、全てに回答している。反応は好評で、学びはシニアの生活の一部だとの思いを深めたという。「聞くだけでなくキャッチボールを求める意識が高い」と襟を正す。

「講座に通うほど元気になる人は多い。学習は健康な人生のサプリメント」と実感を語るのは、くるるセミナーのディレクター生田ふみさん。修了生が自主的にサークルを発足させて高齢者施設で合唱を披露したり、一緒に運動したりする活動に結びついた例も枚挙にいとまがない。

岐阜大の益川浩一准教授（43）＝生涯学習学＝は、最近のシニアは知識を増やすだけでなく、社会貢献など積極的な関わりを望む傾向が強いと分析。「生涯学習は仕事人間を地域社会に軟着陸させる有効な仕掛けだ」と強調、学びが地域デビューの入り口になると確信している。

無断複製・転載を禁じます